

出席者紹介

◆ウー・シャオペイ(中国)～外国人市民センター職員として奮闘中！！

◇中国の蘇州出身のウーさんは、重慶育ち、広州の大学工学部を卒業後、生産管理を学ぶため、1993年に来日しました。留学先の北海道で、勉学、仕事、結婚、出産を経験し、同じ中国出身の夫の転職で2003年に北九州市へ転居。その後、法廷通訳の仕事や市民センターで中国語講座の講師をしています。

今年、第2子の幼稚園入園を機に、折尾西市民センターの常勤職員として、10年ぶりの職場復帰を果たしました。市民センターでは、外国人として雇われたわけではなく日本人職員と同じ扱いのため、まだまだ日本語や対応に不慣れな点もありますが、持ち前の明るさと責任感で、これからの活躍が期待されます。小学3年生と幼稚園児の2児の母親でもあります。

- 1993年 留学のため来日、日本語学校、北海道大学大学院を経て
- 1997年 北海道電力就職、
- 2000年 結婚、退職後、芦別市へ移住、第1子出産、
- 2003年 北九州市へ、その後、第2子出産
- 2007年 福岡地方裁判所 通訳人候補者名簿登載
- 2009年 北九州市外国人市民意見交換会メンバーになる
- 2010年 折尾西市民センター勤務

◆インドリヤニ・ラフマン(インドネシア)～大学院進学のために勉強中！

◇インドリヤニさんは、首都ジャカルタから2時間のところにあるチルゴンの出身です。来日4年目で、2011年4月から、北九州市立大学大学院へ進学し、教育学を学ぶ予定です。北九州へは、来日11年になるインドネシア人夫の九州工業大学大学院博士課程入学に合わせて2006年に転居してきました。

インドネシアの大学では教育学を専攻。現在、小学校5年生と2年生になる2人の子どもを育てながら、日本語と教育学を勉強中です。北九州で学んだことを活かして、小学生向けの環境教育のカリキュラムを作るのが目標です。

市内で働くインドネシア人のための通訳を務めたり、研修生の相談相手となったり、市内インドネシア人の「世話役」的存在でもあります。また、民族楽器の演奏やインドネシア料理の紹介など多くの日本人にインドネシアのことを知ってもらおうと積極的に活動されています。

- 1995年 オーストラリア短期留学
- 1996年 静岡の日本語学校で学ぶ
- 1998年 インドネシア帰国後、シレゴンの高校で日本語教師を務める
- 2006年 夫の九州工業大学大学院進学を機に子どもと共に来日
- 2008年 北九州市立大学聴講生として日本語の授業に参加
- 2010年 北九州市立大学大学院入試合格

◆東 アルイン(フィリピン)～日本語を学びながら地域で活躍！

◇フィリピンのマニラ出身のアルインさんは、2003年3月に初来日し、2005年4月に日本人の夫と結婚しました。現在は、主婦として4歳と小学5年生の子どもの育児、家事に励んでいます。

まだまだ日本語が苦手なため、八幡西区穴生で毎週木曜日に開校されている青春学校と、木曜日を除く平日に開校されている夜間中学で、地元のおじいちゃんやおばあちゃんたちと一緒に、読み書きの勉強をしています。

また中間市女性消防団にも参加しており、地域の人びととの交流を通して文化や習慣を体験しながら、地域社会との関わり合いの大切さを実感しているところです。

- 2003年 来日
- 2004年 中間市女性消防団に入団
- 2005年 結婚、穴生青春学校に通い始める
- 2006年 次女出産
- 2008年 穴生夜間中学に通い始める

◆土井 智子～地域のリーダー

土井さんは現在、当財団の理事をはじめ、北九州市女性団体連絡会議会長、企救丘保育園運営委員、小倉南区社会福祉協議会監事、町内会長および民生委員などを務めており、日頃から地域と深く関わりがあります。

子育て、母親の介護をしながら、社会教育指導員や市民センター館長として働いていた経歴もあり、さまざまな角度から定住外国人女性と地域社会をつなげる役割をしてくれるでしょう。

土井さんが会長を務めている、北九州市女性団体連絡会議は、婦人教育研究会、母の会、保育士会など、市内約120の女性団体(約5万人)からなり、男女共同参画に関する広報・啓発活動に取り組んでいます。

まだまだ外国人市民の参加は少ないようなので、地域社会参加の第1歩として北九州市の女性団体に参加してみませんか。

◆チョ・ファソン(韓国)

忠清南道女性政策開発院 (CWPD) 人材開発課 多文化チーム長

研究分野

少数民族政治：海外在住韓国人と移民

韓国における労働移住とその政策

韓国における多文化

出版物

「北朝鮮最高指導者の行動基準とそれが交渉戦略に及ぼす影響」

『韓国政治学会誌』No.44-1 (2010年)

「アメリカ合衆国とドイツにおける少数民族政策」

『少数民族研究』、No6 (2001年3月)

「海外在住韓国人、中国とソ連における少数民族政策」

『東アジア研究』、No.1 (2000年8月)

* 忠清南道女性政策開発院 (CWPD) *

1999年7月、韓国忠清南道政府によって設立された政策・教育シンクタンク。

“男女平等の福祉社会、忠清南道”の構築に向けて、ジェンダーに配慮した政策および教育プロジェクトに係る調査研究、ワークショップ/セミナーのほか、女性の地位向上に係る各種教育プログラムを実施するとともに、政策提言を行っている。

現在、10名の研究員を擁し、女性政策・人材開発、社会福祉、他文化研究および管理の4チームと、ジェンダー影響評価センター、子ども人性学習院、保育情報センターおよびボランティアセンターの4つの付属センターから構成されている。(所在地 韓国忠清南道公州市、<http://www.cwpci.re.kr/>)

* 韓国・忠清南道 一口メモ *

◇どこに

韓国の中心部に位置しています。仁川国際空港から車で約3時間半程度。(地図)

◇広さは

8,585平方キロメートル(福岡県の面積の約1.7倍)

◇人口は

約200万人(2006年1月)

◇歴史は

忠清南道は、三国時代、百済の中心地域として栄えました。公州(Gongju)は、475年から63年間、都がおかれ、また、扶餘(buyeo)は百済最後の首都であり仏教文化が花開いた場所です。かつて百済と友好関係にあった当時の日本が、唐と新羅の連合軍と戦った「白村江(はくすきのえ)」は、扶餘中心部を流れる「白馬江(Baengmagang)」のことです。

忠清南道となったのは、道制が始まった1896年です。その後、1932年には、道庁が公州から大田市に移りました。(その後、1989年には、大田市は直轄市として忠清南道から分離、1995年には大田広域市となりました。)

2004年にはKTX(韓国高速鉄道)が開通し、ソウルまで最短で約1時間弱でアクセスできるようになりました。

◇観光するなら

今秋9月18日から1ヵ月間、約1600年前に栄えた百済文化を紹介する「2010世界大百済典」の開催が予定されています。これに合わせ、韓国政府は今年を「2010大忠清訪問の年」として観光キャンペーンを展開しています。

百済文化は日本の歴史とも非常に関わりが深く、飛鳥文化の源流といわれています。現在、奈良県で開催中の「平城遷都1300年祭」の中でも「忠清南道ウィーク」が紹介されるなど、今年は日本でも、忠清南道が大きく注目される年となりそうです。

◇ここに注目

高麗エンジンのメッカ

忠清南道の錦山(Gumsan)は、韓国全土の約8-9割の高麗エンジンが取引される世界最大のマーケットがあります。毎年、「世界人参エキスポ」が開催されることでも有名です。

美容に効く：天然ミネラル成分いっぱい泥

忠清南道の西部海岸にある保寧(Boryeong)は、肌の老化防止やハリ改善に効果があるといわれる天然ミネラル成分を豊富に含む泥で有名。保寧の泥を用いたパックは、肌の老廃物を取り除くのに効果があるそうです。



◆田村 慶子

北九州市立大学大学院 教授

研究分野

国際関係論、東南アジア地域研究専攻

国際関係学（博士）、法学（博士）

出版物

『シンガポールの国家建設—ナショナリズム、エスニシティ、ジェンダー』（2000年）

『シンガポールを知るための62章』（2008年）

『東南アジアのNGOとジェンダー』（2004年〔共編著〕）

『現代アジア研究叢書第一巻：越境』（2008年〔共編著〕）

論文

“The Mainstreaming of Gender and Democratization in Southeast Asia : The Role of NGO,” Alexander Duleba & Tadashi Hayashi eds., *Regional Integration in the East and West: Challenges and Responses*, Slavic Research Center & Hokkaido University, 2005